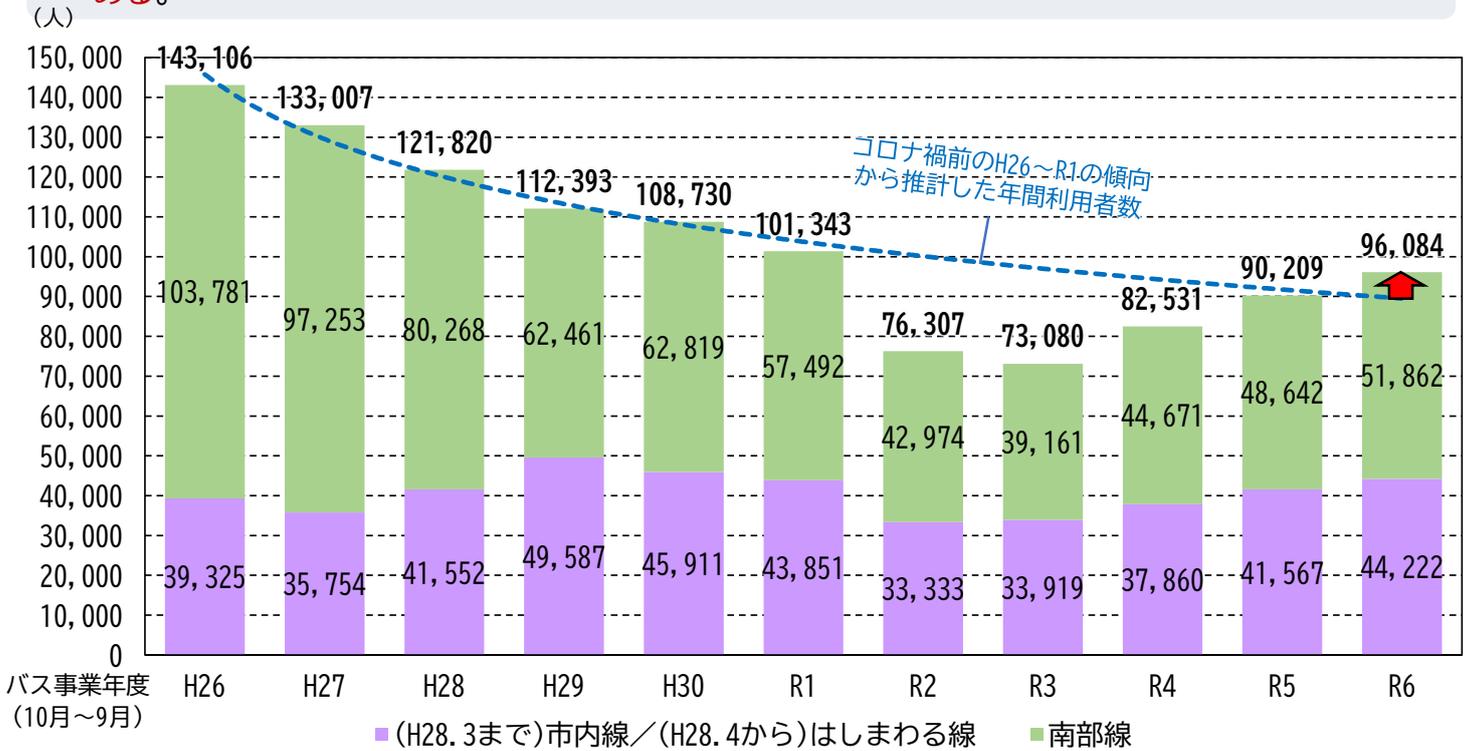


年間利用者数の推移

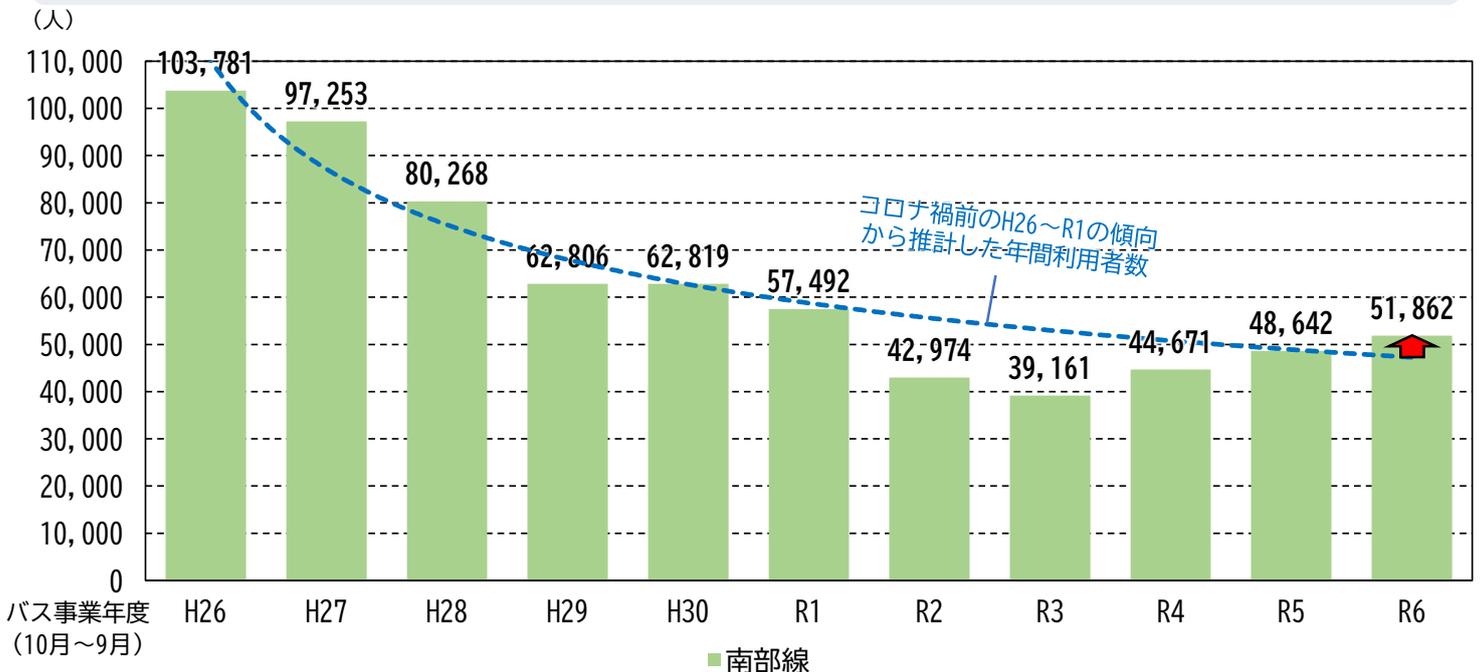
コミュニティバス全体

- 羽島市コミュニティバスの利用者は減少傾向にあり、平成26年度から令和元年度までの間に29%減少している。令和2年度はコロナ禍に伴い大きく落ち込んだが、その後は回復傾向にあり、令和6年度の利用者数は、**コロナ禍前の傾向から推計した年間利用者数と比べると高い水準にある。**



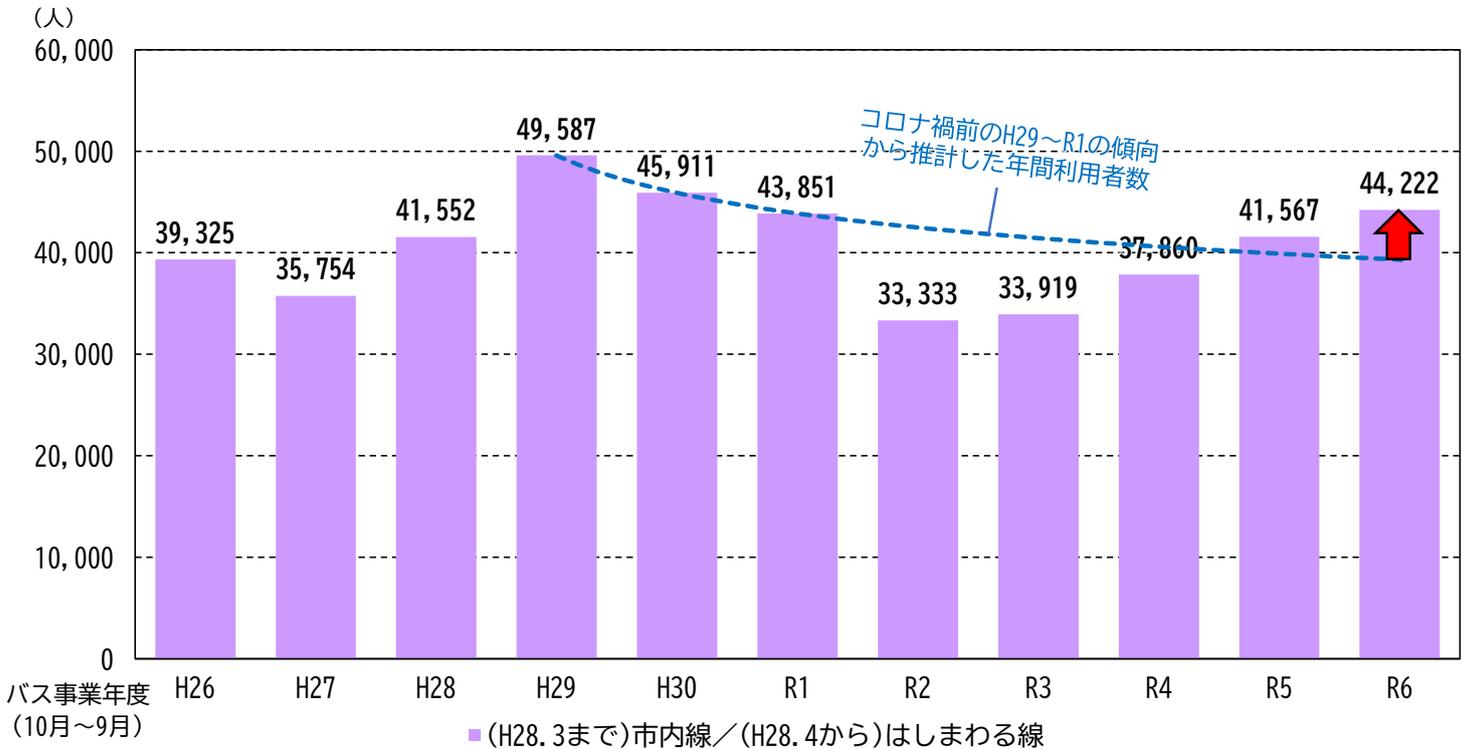
南部線

- 南部線の利用者は減少傾向にあり、平成26年度から令和元年度までの間に45%減少している。令和2～3年度にコロナ禍の影響で大幅に減少した後、令和4年度からは徐々に回復傾向にあり、令和6年度の利用者数は、**コロナ禍前の傾向から推計した年間利用者数と比べると高い水準にある。**

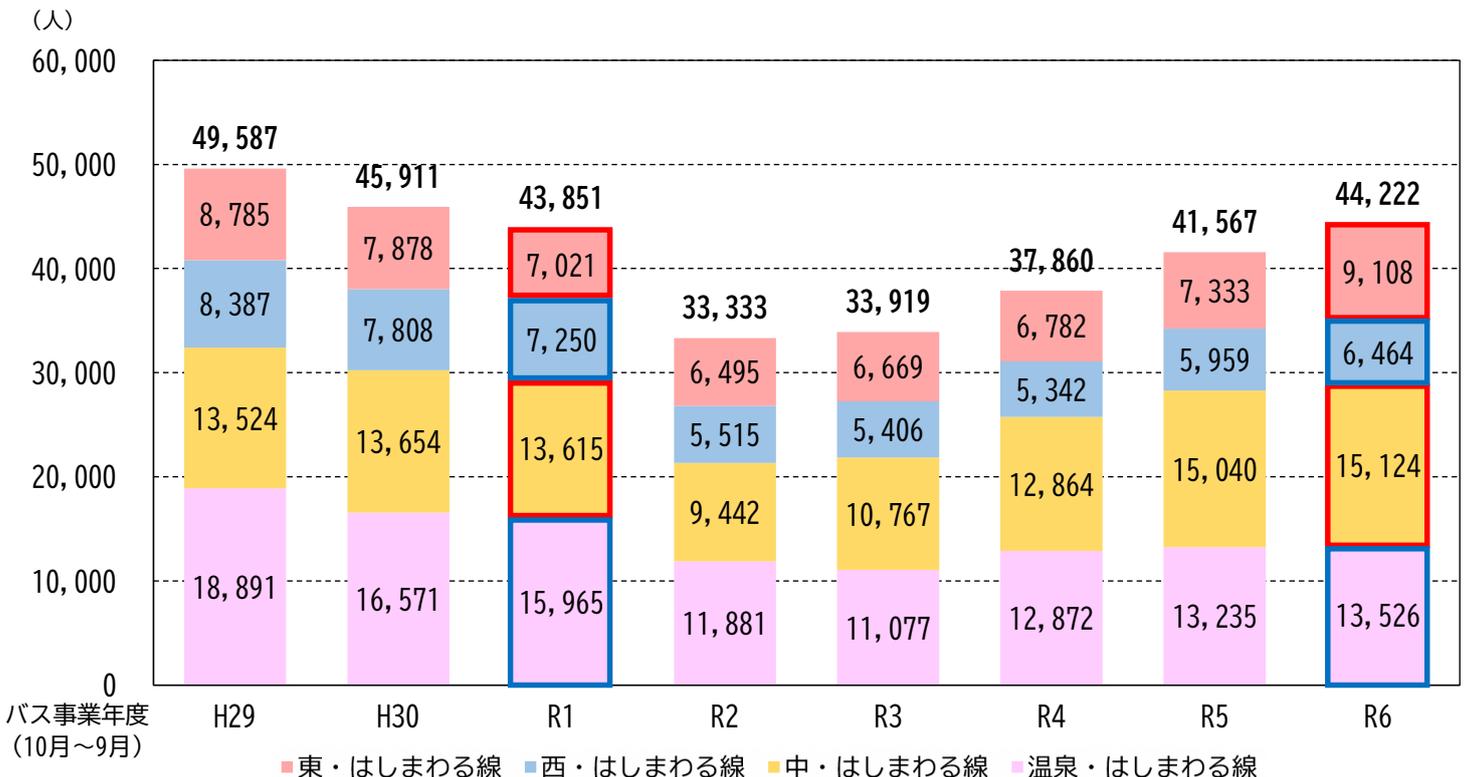


はしまわる線

- はしまわる線の利用者は令和2年度にコロナ禍の影響で大幅に減少していたが、その後は徐々に回復し、令和6年度の利用者数は、コロナ禍前の傾向から推計した年間利用者数と比べると高い水準にある。



- 路線別に令和6年度の利用者数を令和元年度比で見ると、東・はしまわる線が**30%増**、中・はしまわる線が**11%増**とそれぞれ増加している一方、温泉はしまわる線は**15%減**、西・はしまわる線は**11%減**とそれぞれ減少している。



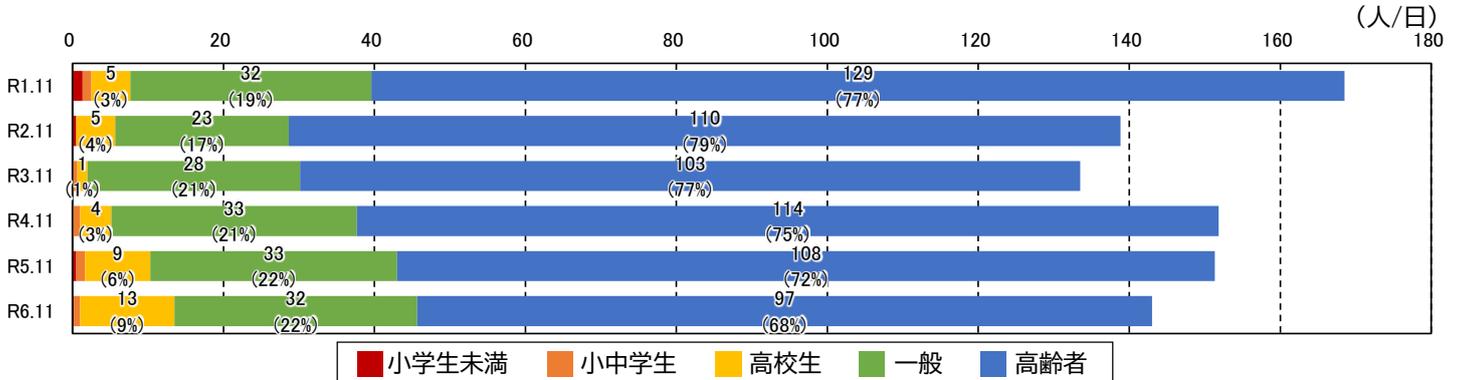
各路線の利用状況

はしまわる線

属性別利用者数の比較

データ：乗降調査

- 全体に占める割合の大きい高齢者の利用が令和2年度以降一貫して減少傾向にある一方で、高校生の利用は令和3年度以降増加傾向にある。



バス停別乗降者数の推移

データ：乗降調査

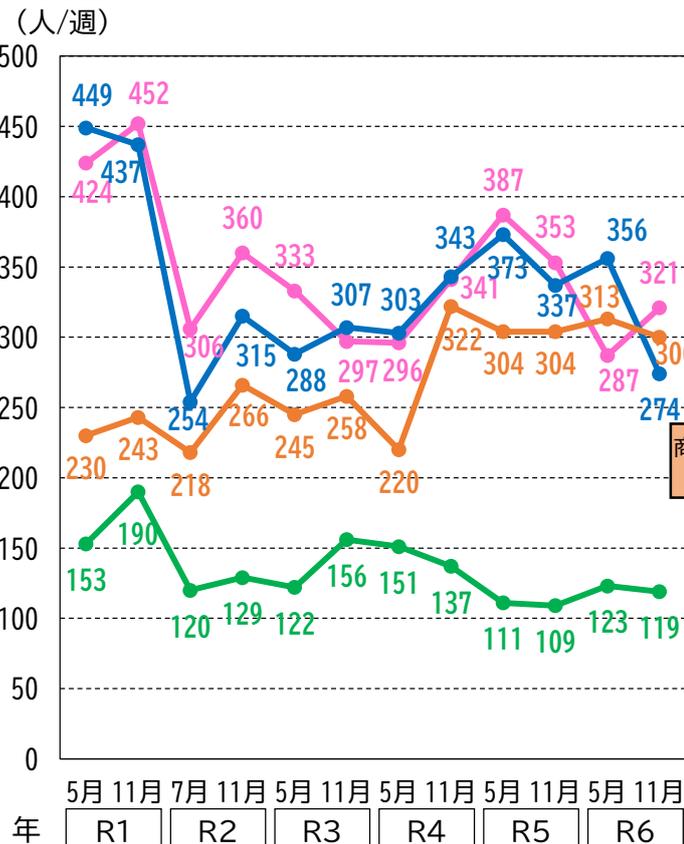
羽島温泉: 令和2年7月に令和元年同時期と比べ7割程度まで減少し、その後令和5年5月まで回復基調となったが、再度減少傾向となり、令和6年11月は令和元年同時期の7割程度となっている。

JR岐阜羽島駅: 令和2年7月に令和元年同時期と比べ6割程度まで減少したが、その後令和5年5月まで回復基調となったが、再度減少傾向となり、令和6年11月は令和元年同時期の6割程度にとどまっている。

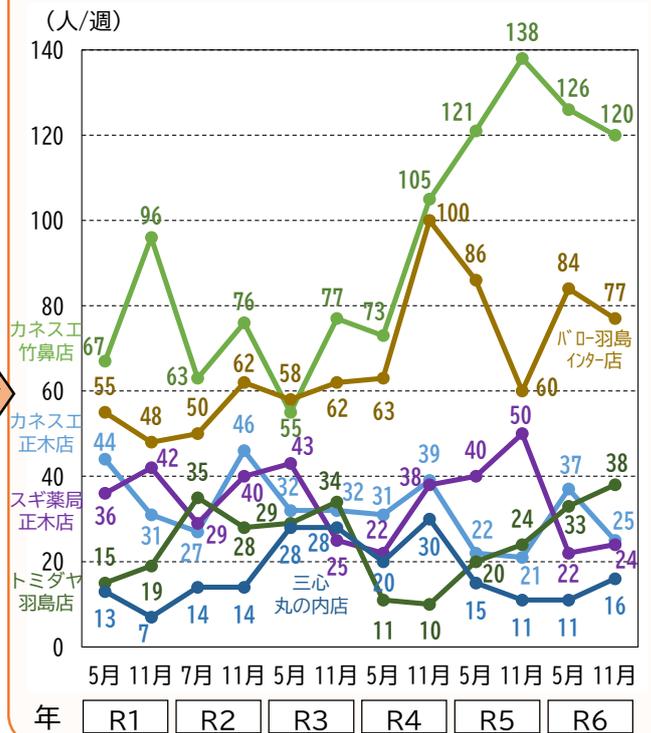
商業施設: 令和2年度以降も大きな減少は見られず、令和4年11月に大幅に増加して以降横ばいで推移しており、令和6年11月は令和元年の約2割増の水準で推移している。

市民病院: 令和2年7月大きく落ち込んで以降、令和3年11月に若干の回復傾向を見せたが、その後また減少傾向となり、令和6年11月は令和元年同時期の6割程度にとどまっている。

主な施設

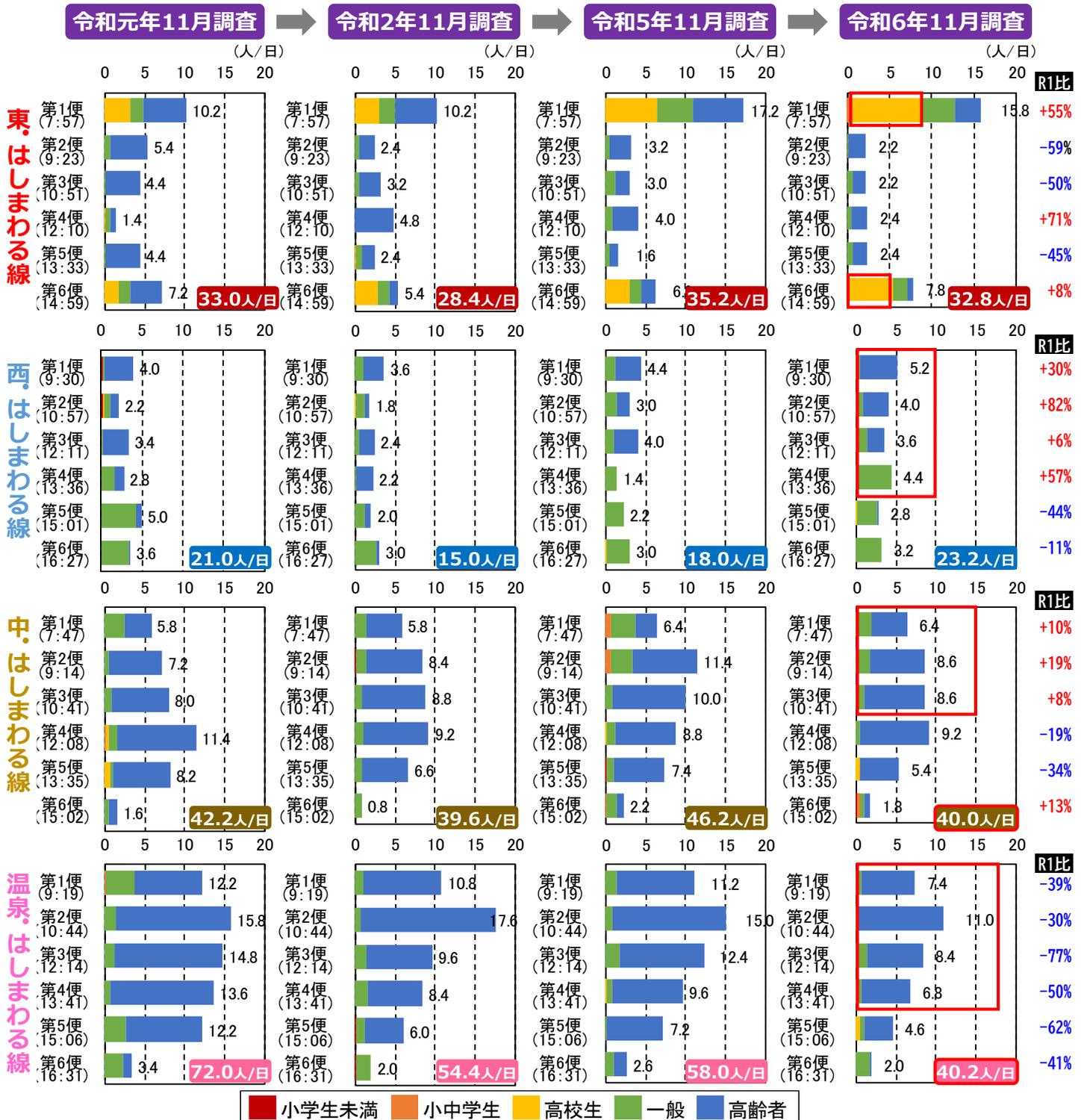


商業施設



※スギ薬局正木店：令和3年10月まで三心羽島店が存在した。

- 令和2年度は、全体的に減少する中、特に利用者の多い温泉・はしまわる線の午後の便の減少が大きかった。
- 令和6年度は以下のとおりとなっている。
 - 東・はしまわる線：概ね令和元年度の水準まで回復し、特に第1便の増加が顕著。第1便・第6便の高校生(特別支援学校)の利用も増加
 - 西・はしまわる線：令和元年度を上回る水準まで増加しており、特に第1～4便が顕著
 - 中・はしまわる線：羽島温泉を目的とした利用の多い第1～3便が回復するも、令和元年度と比べると全体として微減
 - 温泉・はしまわる線：羽島温泉を目的とした利用の多い第1～4便を含め全体として大幅な減少傾向

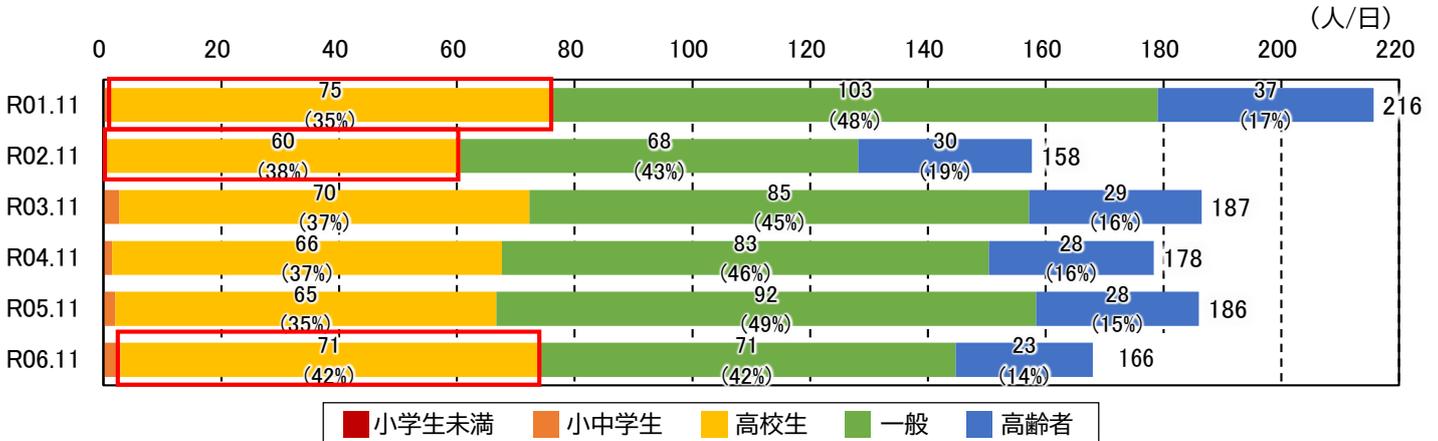


南部線

属性別利用者数の比較

データ：乗降調査

- 令和6年11月は、令和元年11月の約77%まで回復している。
- 高校生の利用が、令和2年度に令和元年度比で約80%まで減少したが、令和6年度は同比約95%にまで回復している。

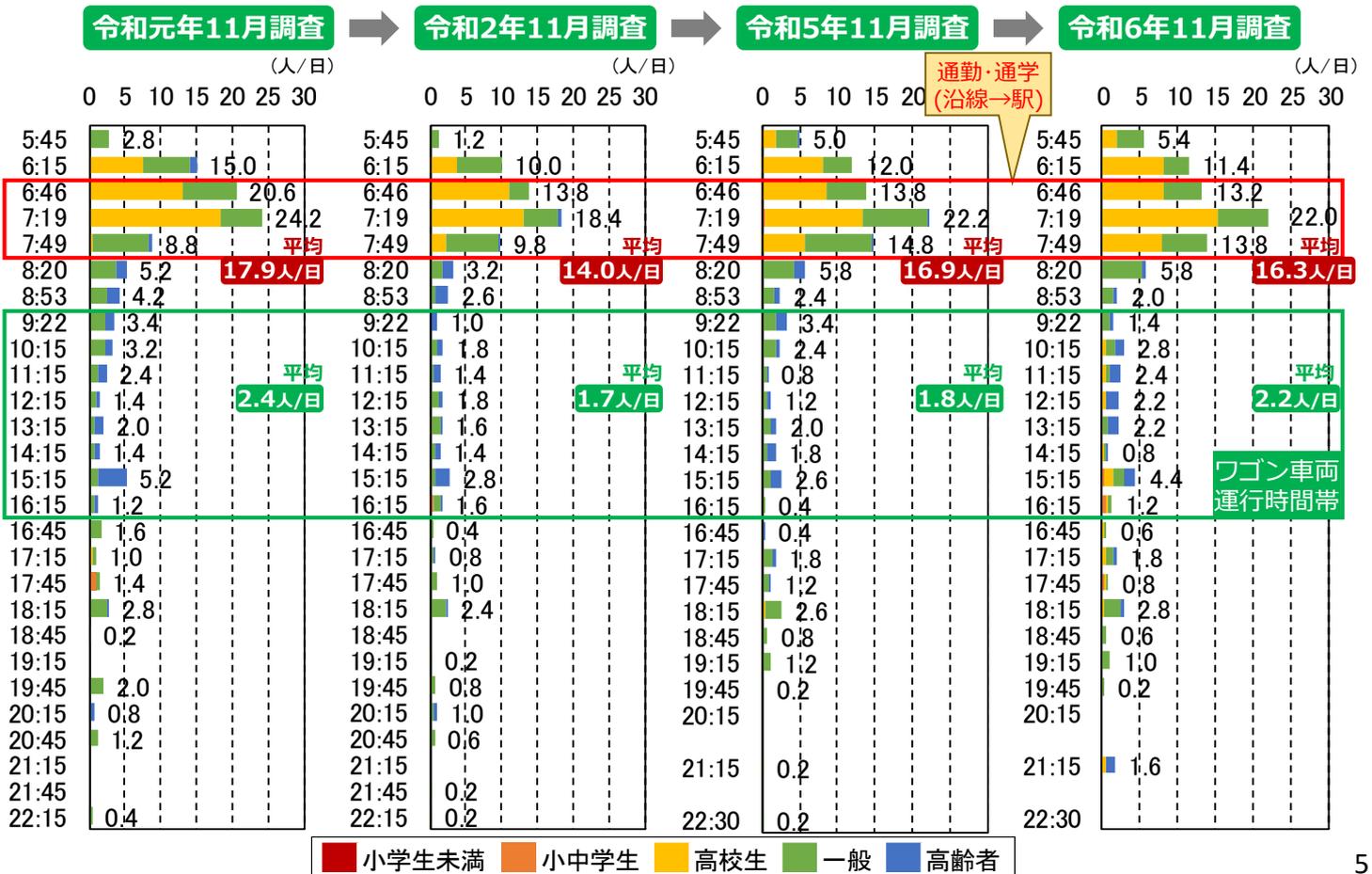


便別利用者数の比較

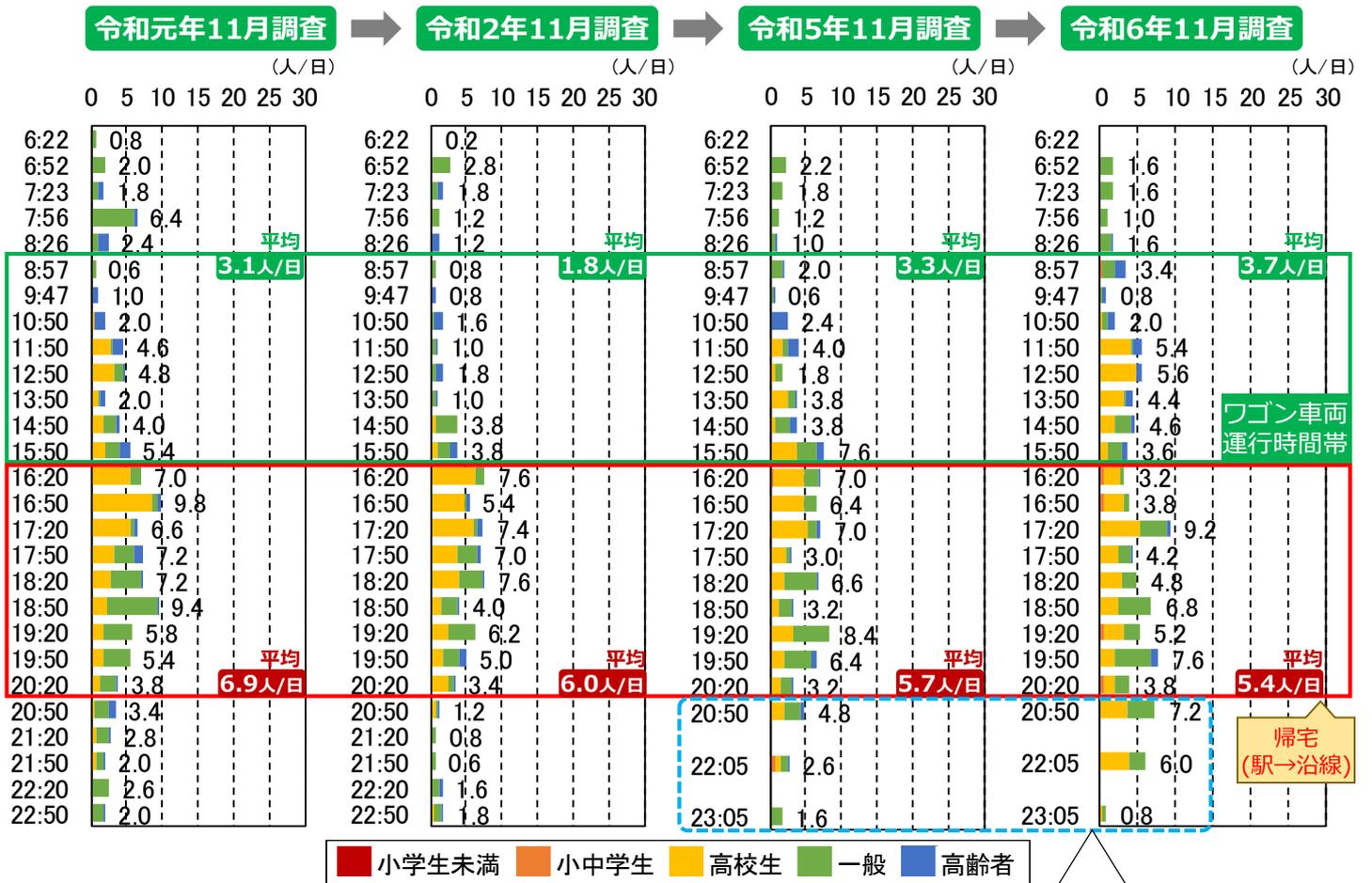
データ：乗降調査

- 平日は通勤・通学利用が多く、朝は羽島市役所前駅行き、夕方から夜間は大須行きの利用者が多くなっている。
- 令和6年度の利用者数をみると、朝の便は令和元年度の9割程度、夕方の便は8割程度になっている。
- 昼の便(ワゴン車両運行便)の利用者数は、羽島市役所前駅行きは令和元年度と比べて9割程度となっており、大須行きは2割程度増加している。

平日 羽島市役所前駅行き



平日 大須行き



夜間（羽島市役所前駅20:50発以降）の各便において、一定の高校生の利用がみられ増加傾向にある